

下水汚泥からの再生リン肥料化の進捗状況について

本市では、食料安全保障の強化や農業の持続性向上だけでなく、循環型社会や地域活性化の観点においても重要なサーキュラーエコノミーの構築等につなげるため、リン成分を多く含む下水汚泥から再生リンを回収し、再生リンを配合した肥料を活用する取組をJA横浜、JA全農かながわと連携して進めています。

1 再生リンの肥料登録

令和6年3月に竣工した施設で回収した再生リンを肥料原料として利用するためには、「肥料の品質確保等に関する法律」において、肥料の品質を確保するため、再生リンを生産する肥料事業者が製品の登録等が義務付けられていることから、本市が再生リンの肥料登録を申請し、令和6年6月25日に肥料登録（農林水産大臣）を受けました。

【登録内容】

- ・登録年月日 : 令和6年6月25日
- ・肥料の種類 : リン酸マグネシウムアンモニウム
- ・肥料の名称 : よこはまMAP1号
- ・保証成分量 (%) : アンモニア性窒素 4.0
く溶性^{※1}リン酸 20.0
く溶性苦土^{※2} 11.5



再生リン

※1 く溶性：クエン酸2%で溶ける肥料性能のこと。

根から出る根酸で徐々に溶け出すためゆっくり効きます。

※2 苦土：マグネシウムの事で、肥料の有効成分の1つです。

2 再生リン入り肥料の肥料登録

再生リンの肥料登録が完了したことから、再生リンを原料とした配合肥料の製造が可能となりました。肥料の配合設計・製造はJA全農かながわにて行い、製造する配合肥料は野菜や花き類など幅広い種類の作物に施用できるよう汎用性の高い8-8-8肥料^{※3}としました。

この配合肥料も「肥料の品質確保等に関する法律」において、再生リン入り肥料を生産する肥料事業者が製品の登録等が義務付けられていることから、JA全農かながわの協力会社が肥料登録を申請し、令和6年8月26日に肥料登録が完了しました。これにより、肥料としての製造が可能となったため、JA全農かながわの協力会社の工場において、8月末より配合肥料の製造を開始しています。

※3 8-8-8肥料：窒素8%、リン酸8%、カリウム8%を含む肥料

【登録内容】

- ・登録年月日 : 令和6年8月26日
- ・肥料の種類 : 混合堆肥複合肥料
- ・肥料の名称 : くみあい混合堆肥入り複合肥料888



配合肥料のイメージ

3 再生リン入り肥料を用いた試験栽培

(1) 農業利用

製造した肥料の効果等を確認するため、JA横浜や市内農産物の生産者などの協力を得て、令和6年10月から冬野菜の試験栽培を予定しています。試験栽培に先立ち、生産者向けにリン回収施設の視察（写真1）などを実施し、生産者からのご意見もいただきました。今年度すでに、約50名の生産者の視察があり、今後も年内に更に50名程度の視察を予定しています。



写真1

生産者の声

- ・ぜひ横浜由来の再生リン入り肥料を試験的に使ってみたい
- ・野菜の消費者には、再生リン入り肥料を環境付加価値として捉えてほしい
- ・循環型社会の形成につながる



(2) 公園利用

市内公園において、花壇の花や植木等に試験施肥を行います。

(3) 国際園芸博覧会協会での利用

GREEN×EXPO 2027での活用に向け、国際園芸博覧会協会において、再生リン入り肥料を使った植栽試験を令和6年10月から行い、効果を検証します。

4 今後の取組（予定）

- | | |
|---------|---|
| 令和7年1月 | 春野菜用の試験施肥開始 |
| 2月 | JA横浜と協力したPRイベント開催 |
| 6月 | 試験栽培で収穫された春野菜を使ったPRイベント開催 |
| 令和8年度以降 | リン回収施設の本格運用開始
GREEN×EXPO 2027での肥料活用によるPR |



再生リンの肥料利用促進に向け締結した連携協定における各者の代表的な役割

